

# 核兵器のない平和な世界の実現のために 私たちにできることを考えよう ～核兵器禁止条約締結にむけて～

開催日 2011年12月12日(月)  
会場 東京都生協連会館 3階  
講師 小沼 通二氏(慶応義塾大学名誉教授・明治学院大学国際平和研究所研究員  
世界平和アピール七人委員会委員)



小沼 通二氏

参加人数 55名  
主催 東京都生協連平和活動担当者連絡会



東京都生協連  
竹内専務

## 開会挨拶

平和の取り組みを各生協一緒に考える場として  
平和活動担当者連絡会がある。  
生協では震災後南三陸町で被災地支援を続けて  
いる。平和の活動も含めてこれからも生協にで  
きることをしっかりと取り組んでいきたい。

## スケジュール

10:00～開会挨拶  
10:05～小沼氏講演  
12:15～質疑応答  
12:35 閉会

## 小沼通二氏講演

### なぜ「核兵器禁止条約が必要か」

日本国憲法では“世界諸国民が「恐怖と欠乏を免れて平和に生存する権利」を持つこと”が確認され、国際連合憲章にも“戦争の惨害から将来の世代を救い”とあるように平和を脅かすものは持つこと、使用することはできない。ジュネーブ議定書においても科学兵器と細菌学的戦争方法の使用を禁止し、また、生物兵器、化学兵器、対人地雷、クラスター爆弾の禁止条約もあり、日本も批准している。核兵器も持っていない、使っていないはずがない。核保有国は使っていないと言っても、自衛権の拡大解釈により戦争で負けそうになれば必ず使う。自衛権を持ちだせばよいものではなく、国際紛争には平和的解決が必要である。



### 核実験の影響と核保有国の現状

核実験があると少し遅れて雨の中の放射能が増え、雨が降ったところに放射能がおりてくるデータがある。今もボタン一つで核兵器が発射される状態になっている国がある。核を放棄する国も出てきているが、やはり保有国は増えている。しかし、一国がやめると他にもやめる国が出てくる実態もある。これからの戦争は勝っても負けても核を使ってしまえばその影響は大き過ぎる。現在の世界の核の数を実感するために橋本公というアーティストの作ったDVD「オーバーギルド(過剰殺戮)」を見てみよう。(2万個の玉が次々に落とされるさまを映したもの。その多さの感覚は想像以上だった。)

### 世界の動き

ビキニ実験の影響を受け、このままでは核兵器がなくなるか、人類がなくなるかだということで、戦争に平和的解決を目指さないといけないとし、1957年 核兵器と戦争の廃絶を訴える科学者の国際的組織、パグウォッシュ会議が発足された。(小沼氏は発足時からの参加者。)また、先立つ1955年 世界平和アピール七人委員会も発足し今も活動を続けている。

中国の核実験後は核不拡散条約NPTが制定され、インドの核実験後は原子力供給国グループができた。これによりNPTに入らない国には原子力の平和利用の協力はしないことになった。しかし、核の傘を含めて、核兵器が役に立つという国が態度を変えなければ他にも保有したい国が出てくる。自衛権の名の下に戦争が起

こされてきた現実がある。今の野田政権はグローバル・ゼロサミットの中で核の抑止力を認めるメッセージを発信した。これは日本の発言力を弱め国際的にも恥ずかしいことである。

## 非核の世界へ

核を置かない、実験しないと決めた国、地域はある。世界は非核に動いているともいえる。国連総会決議でもすべての国に核兵器禁止条約の完結の義務の履行を求めた。しかし日本は棄権を続けている。潘基文国連事務総長は2011年10月再び核兵器禁止条約交渉を呼びかけた。

## 核兵器禁止条約ができたなら

核兵器廃絶は必要だが、禁止してからどこへ向かうのか、抜け道探しにならないように紛争の平和的解決、戦争廃絶に向かわなければならない。力の強い側が先に譲らないと収まらないことを理解し、近隣諸国との友好関係の下で安定した発展をしていく。双方がやる気を出してやればできないことではない。



## 私たちにできること

困難な中でも戦争のない時代を広げていくことはできる。いつどのように変化するかは予測できなくても、変化の機会が来たときに捕まえらるるよう準備しておかないと見送ってしまうことになる。核廃絶、戦争廃絶は夢ではなく現実である。それに向かって努力をしていこう！一人ひとり小さなことからでもできることを考えてみよう。



## <付録・原発と核兵器>

核の軍事利用と平和利用は両手のようなもの。原発は核兵器の準備のようなものだとして理解したほうが良い。ヒロシマ、ナガサキ、ビキニ、フクシマで起きたことを世界のどこでも繰り返してはいけない。核兵器と原発では必ず大量の放射性物質が作られる。使用済核燃料の処理の具体的な技術開発の見通しがたたないまま原発は見切り発車し、事故の経験を生かすことなく使われ続けてしまった。

今後は持続可能なエネルギー資源へ、そしてエネルギーの大規模集中社会から小規模分散社会へと変換を図っていかねばならない。原発大国のアメリカやフランスも再生可能エネルギーへの投資には力をいれている。日本はもっと技術を磨き、やる気とお金を出して取り組んでいかなければならない。

### 参加者の感想から

「核兵器禁止条約」の流れを説明いただいたことでその問題点と必要性が理解できたように思います。核兵器の説明により原発の問題点がより見えてきた様に思います。

原発の使用済核燃料が核兵器に転用可能の事実にはショックを受けました。先日日本政府が原発の技術輸出を促進しているニュースに驚きましたが、核拡散の加害国になるのかと不安です。

今まで聞いたことのなかった視点から学ぶことができよかったです。

核兵器が完全になくなるには政治的なことが大きな壁のようですが、日本人からもっと声を大にして運動していきたいと改めて思いました。

とても恐ろしい事実を知りました幼い子どもを育てている私はこの国で子育てしていくのが不安でたまりません。私に出ることは今は核兵器禁止条約締結の署名を1人でも多くの人からもらうこと、そこから始めていきます。

人間として理由はなんであっても核の利用はありえないことだと思っています。

核兵器のない世界が近い将来に訪れることを！

橋本公さんのビデオは衝撃的でした。始末の仕方も考えずに核を扱ってきた自分たちにも責任があることを痛感しました。自分にできることを考えていきます。

難しいかと思っておりましたが、非常にわかり易くお話していただいたので、核兵器禁止条約に向けての各国の動きや、何が求められているかということについて理解が深まりました。